



つよい子

令和7年度 学校だより

第7号

余市町立大川小学校

令和7年9月30日

【令和7年度 重点目標】 ◎ 『伝わること』を意識して生き生きと表現する子の育成
◎ 思いやりの心を持ち ルールとマナーを守る子の育成

個の成長 と 協働的な学び

～ 自分を大切に・まわりの人を大切に ～

校長 大山 敏広

◆夏の暑さの記憶がどんどん薄らいで、早まる日暮れとともに秋色が深さを増してきています。確実に秋が近づいていることを実感する時期となりました。この夏の記録的な暑さ、集中豪雨の報道から、地震や火災と同様に改めて酷暑や豪雨に対する危機管理が重要であると痛感しています。そして、地球環境の急激な変化に対応することの難しさを感じているところです。

◆この時期、校内では楽器の音や爽やかな歌声が響いたり、一人一台の端末（タブレット端末）でスライドを作成したりする様子が見られます。10月11日（土）の「学習発表会」では、これらの日常の学習の成果を御覧いただくことができるよう、各学年のカリキュラムに沿って学習を進めているところです。

◆さて、令和7年度の前半を9月30日で終えます。今年度の重点教育目標である「『伝わること』を意識して生き生きと表現する子の育成・思いやりの心を持ち、ルールとマナーを守る子の育成」に力を入れた前半は、各種行事や教育活動全般の様子から、目標に近づいている場面が多く見られるようになってきていると感じています。

◆「7歳の1年生」と「12歳の6年生」…当然のことながら、成長段階としては大きな開きがあります。それぞれの発達段階に応じて、目指すところや行事に臨む姿勢、グループでの話し合い活動、校外での学習の様子等は異なりますが、子供たちの姿からこの半年間での段階に応じた確かな成長を感じます。

◆学習の様子に目を向けると、授業の中で自力解決する場面があったり、対話を重ねながら他者の多様な思考を理解したりする場面があります。



また、タブレット端末を活用し、相手に伝える効果的な方法を学んでいる様子が見られます。高学年のタブレット端末の利活用はもちろんのこと、低学年の操作についても少しずつ上達してきています。



◆教育活動は、一朝一夕に成果を上げることは望めません。日々の指導の継続と子供たちへの適切な声掛け（機を逃さない評価）が大切です。学校は、半年間の子供たちの変容をしっかり評価し、後半の活動につなげることができるように努めます。

◆今後も1年生から6年生までの発達段階に応じた個別最適な学びと、「学校という社会」の中での協働的な学びを大切にしながら、指導と改善を積み重ね、子供たちの成長につなげていきたいと考えております。

◆先日、後期児童会委員の認証式を行いました。代表児童が挨拶の中で、「大川小学校をよりよい学校、より素敵な学校にしたい」…と述べました。その意欲・やる気に感心し、頼もしく思いました。それを受けて、私は「児童会活動でも、学級の係活動でも、日常の学習や生活の中でも『まず、自分（の考え）を大切に。そして、まわりの人（の思い）にも目を向ける。』そのような意識を大切にしてほしい」と伝えました。

◆後期も人との関わりやつながりから視野を広げて学び、成功も失敗も糧にしながら子供たちの未来につながる「生きてはたらく力」を育んでいきたいと考えております。後期も引き続き、御理解と御協力をいただきましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。